第14回アジア情報機関懇談会

「多文化共生施策と図書館の多文化サービス」

2015年2月5日　於：国立国会図書館関西館

京都大学附属図書館
北村　由美

日本社会の現状と今後

- 外国人数の増加・多様化

⇒出身国の多様化

⇒在留資格の多様化

⇒所属コミュニティの多様化（職種・宗教・年齢 etc.)

図書館の課題

ミクロ

多様化する利用者のどのようなニーズに応えていくか

マクロ

国や地方自治体の多文化共生施策に位置づけた多文化サービスの設定

日本の図書館の取り組み（本日の発表から）

公立図書館の事例
（大阪市立中央図書館・福岡市総合図書館）

●市の方針

大阪市立中央	福岡市立総合
「大阪市外国籍住民施策基本方針」（平成16年3月改定）	「福岡市国際化推進計画」（平成15年6月）

●コレクション形成

大阪市立中央	福岡市立総合
登録外国人数を反映した、多言語コレクションの形成 ①仕事・暮らしに役立つ図書 ②日本に関係がある図書 ③外国の言語・文化を学びたい人にも！ ④ハンブルグ中央図書館や、アメリカセンターとの協定	①国連寄託図書館 ②映像資料購入事業

公立図書館の事例
（大阪市立中央図書館・福岡市総合図書館）

- 人員配置

大阪市立中央	福岡市立総合
特定の語学に精通した司書の採用はない	中国語（1名）、韓国語（1名）、英語・国連寄託（2名）

- 交流イベントなど

大阪市立中央	福岡市立総合
おはなし会、講演会、国際交流フォーラム	アジア・フォーカス上映資料の収集

大学図書館の事例
（九州大学・立命館アジア太平洋大学）

- 背景：（文部科学省の方針に基づく）大学の国際化
  - 留学生、外国人教員の増加、受入れ形態の多様化
  - 授業の英語化
  - 日本人学生の送り出し強化
- 館内：コレクション、館内表示、人的サービスの多言語化、留学生交流イベント
- 館外：学内他部局との連携の強化

移民受け入れ先進国の図書館
（本日報告と文献より）

オーストラリアの図書館

- 背景：人口は約2,150 万人、うち海外生まれが24.6%（2011年国勢調査）
- 国立図書館：海外コレクションを担当する、各国出身司書
- ニューサウスウェルズ州立図書館：公共図書館の多文化サービスを支援
- シドニー市立図書館：地域ごとの住民の特性に合わせて、資料やサービスの棲み分け

スウェーデンにおける移民受入れの背景

- 20世紀前半まで　移民の送り出し国
- 第二次世界大戦後　復興のためにギリシャやトルコから受入れ
- 1970年代　家族の呼び寄せ開始

←図書館サービス開始　（母語資料購入の国の特別補助金）

- 1980年代　中東・アフリカからの難民の受入れ
- 2009年　スウェーデン以外の民族・文化的背景を持つ住民18・８％

小林・吉田・和気（2013）『読書を支えるスウェーデンの公共図書館－文化・情報へのアクセスを保証する空間』

現代スウェーデン社会？

ヘニング・マンケル（2014）
『北京から来た男』上・下
東京創元社

スウェーデンの図書館の取り組み

- ストックホルム市立図書館併設の国際図書館
- 一人の職員が２・３言語　100言語以上に対応
- 雑誌、新聞、音楽CD、ビデオなども収集
- 世界各国から作家を招いて講演会
- 高齢者の移民と対象とした母語による読書サークル
- 移民自児童の学習支援（多くの図書館で行っている、自由参加）
- スウェーデン社会への適応に課題があるソマリア系移民・難民に焦点をあてた資料やサービス（リンケビー図書館）同じ立場の職員がいる

小林・吉田・和気（2013）『読書を支えるスウェーデンの公共図書館－文化・情報へのアクセスを保証する空間』

デンマークの図書館の取り組み

- マイノリティ住民のための統合図書館センター（BibliotekscCenter for Integration）設立
- 言語資料の収集⇒各公共図書館に貸し出し
- デンマーク語の学習教材の収集・提供
- 移民・難民の子供たちへの宿題支援（宿題カフェ：Lektiecafeer)
- 『FINFO』というインターネット上につくられた情報の広場（就労情報・社会保障・文化・娯楽・政治に関わるコンテンツ）が、ボスニア語、デンマーク語、英語、アルバニア語、ソマリ語、ベトナム語、トルコ語、ペルシャ語、アラビア語、ウルドゥ語の11言語でアクセス可能
- マイノリティ利用者とマジョリティ利用者の接点が少ない点が課題

吉田右子（2010）『デンマークのにぎやかな公共図書館－平等・共有・セルフヘルプを実現する場所』

宿題カフェ：LEKTIECAFEER

- 2007年から2009年までは100の公共図書館を目標にプロジェクト・ベースで開始
- 文化省と難民・移民統合省の協定
- デンマーク図書館局が（Bibliotekssty relsen）財政支援
- 統合図書館センターが運営

吉田右子（2010）『デンマークのにぎやかな公共図書館－平等・共有・セルフヘルプを実現する場所』

「ヒューマン・ライブラリー」の開催

- 2001年にデンマークのロックフェスで暴力追放イベント「リビング・ライブラリー」として開催

- 難民、移民、イスラーム教徒、LGBT、アルコール依存症、障害者、ホームレス、フェミニスト、警察官など誤解や偏見を持たれている人がリビングブックとなり、話をする。

⇒学校や図書館に拡大

2008年に日本でも第1回が開催（京都国際会館）

駒澤大学社会学科坪井ゼミ（2012）
『ココロのバリアを溶かす―ヒューマンライブラリー事始め』人間の科学新社

これからの図書館

本日提示された課題

- 結節点としての図書館
- 外国人住民の年齢やおかれている状況に即した図書館サービスの提供とモデル化
- 図書館間・関係機関間連携–情報、資料、ノウハウの提供や図書館支援の中心となる図書館の設定など
- 関係政策における図書館の役割の明確化